



南殿(写真上)は日本式の儀式や薩摩の役人たちの接待所として使われた。北殿(写真下)は役人の執務室であり、中国からの使者の接待所としても使われた。現在は展示室や売店がある。



純和風の書院は、王の執務室。

ガイドの伊禮奈那子さん。時間ごとに担当ガイドが代わり、その内容もさまざまのこと。「私は展示物など、目の前にあるものから話を広げるようにしています」と伊禮さん。



琉球建築の粋を集めた首里城正殿。首里城の龍の爪は4本が普通だが、2階玉座の「御差床」(左写真)背面にある三つの扁額の龍の爪は5本。これは中国皇帝から贈られた書を仕立てたものだからとのこと。



写真提供 / 首里城公園

この日のガイドは、琉球王国時代の士族の少年に扮した伊禮奈那子さん。  
首里城は奉神門から先が有料区域になっていて、門をくぐると御庭を挟んで、正面に正殿、右に南殿、左に北殿がある。青空をバックに立つ朱漆塗りの正殿が美しい。日本のお城とのあまりの違いに、

**沖** 縄が琉球王国だったころ、首里城は王様の居城であり、政治・外交・文化の中心だった。中国との朝貢関係の下、海外交易で栄えていた琉球だが、1609年には薩摩の侵攻に遭い、その支配下におかれた。二つの国の間であって、独自の文化を花開かせていった琉球。その魅力を知りたくて、首里城の無料案内ガイドに参加してみた。

あらためてじっくりする。  
正殿と北殿には中国式の建築の影響があるが、南殿だけは白木仕上げ。伊禮さんによると、それは南殿が日本式の行事に使われていたからなのだそうです。現在の南殿には、王国時代の美術工芸品の数々が展示されている。  
さらに書院・鎖之間から奥書院、黄金御殿へ。黄金御殿は王や王妃、王母の居室があり、男子禁制だった場所。現在は特別展示室として使われている。

アーチを描く石垣が美しい首里城。高台にあり那覇市街や海上の慶良間諸島まで見渡せる。



「はじめまして！」  
沖縄



# ビギナーにおすすめプラン ガイドと回ると首里城が もつと面白くなる！

憧れの沖縄に初上陸！ そんな沖縄ビギナーの皆さん！  
沖縄の成り立ちをざっくり知るために、ぜひ行ってほしいのが首里城です。  
首里城には無料のガイドツアーがあると聞き、さっそく参加してみました。

## ●首里城ガイドツアー

1日6回、9時、10時30分、13時、14時、15時、17時～開催 / 南殿・番所前に集合する(予約不要) / 定員15名 / 南殿→書院・鎖之間→奥書院と庭園→黄金御殿・寄満・近習詰所→正殿をガイドの解説付きで回る / 所要約50分

## ●首里城公園

那覇市首里金城町1-2  
☎098-886-2020  
Ⓧ8:30~18:00(12~3月、季節で変動あり)  
Ⓧ820円(大人、正殿など奉神門から入場する区域のみ有料)  
Ⓧ7月第1水曜とその翌日  
Ⓧゆいレール首里駅または儀保駅から徒歩約15分(守礼門まで)

集合場所は南殿入口。  
先が有料区域になっていて、門をくぐると御庭を挟んで、正面に正殿、右に南殿、左に北殿がある。青空をバックに立つ朱漆塗りの正殿が美しい。日本のお城とのあまりの違いに、

「お客様から質問があるとうれしい。それが勉強にもなります」と伊禮さん。あなたも案内ガイドに参加して、首里城の「なぜ？」と、その答えを探してみよう。

いよいよ首里城で一番きらびやかな正殿へ。御差床と呼ばれる玉座のまわりには、王の象徴とされる龍の姿がいっぱいある。中国皇帝に敬意を表し、通常、琉球の龍は4爪。でも、ここには5爪のものがあると聞き、思わず探す。「5爪のものは中国皇帝からの贈り物の書の扁額に」という説明に納得した。